

史学委員会 IUHPST 分科会（第 25 期・第 2 回）
議事要旨

1. 開催日時 令和 3 年 2 月 13 日（土）19 00 分～20 時 30 分
2. 開催方法 オンライン方式（Zoom）での開催
3. 出席者 木本忠昭〈委員長〉、隠岐さや香、河村豊、佐野正博、橋本毅彦、兵藤友博、溝口元

4. 議 題 （1）前回議事録を承認した。

（2）日本学術会議 分科会活動に関するアンケートへの回答の検討

委員長より、当分科会のアンケート受取が遅れた経過、第一部長の、特任連携会員申請との関連でのアンケートへの位置づけの言及（メール）、並びに史学委員長の当分科会の回答へのスタンスの示唆、さらに本日の分科会開催までの経過が説明された。

ついで、本日開催までに委員から回答への意見が寄せられなかったため、委員長から回答原案が提示されて議論が交わされた。

意見には、

- ・分科会が行ってきたことに限定した内容にすべきである。原案はアグレッシブである。
- ・分科会には個別に違いがあるので、とくに本分科会のように国際対応を主としているので、必ずしもアンケート設問に適合しない面もある。設問はもう少し丁寧にするべきであった。
- ・やってきたことだけでも良いが、原案でいい。
- ・アンケート回答のフィードバックがなされて全体改善につながる展望になって行われているのか。
- ・アンケート設問内容からみて、現時点で学術会議が置かれている位置と対応の仕方から、疑問もある、そのような対応の仕方についての意見も提示すべきではないか。

等が表明され、結局、取り組んできた内容をメインにする構造にし、原案に含まれていたアンケート設問や学術会議の対応のあり方に関しては、補足的に述べる二次案を作成し、提出期限までにメールで検討する、となった。

（補：関連メール 2 月 14 日～17 日。

2 月 16 日まで寄せられて委員の意見にもとづいて第 2 次案が作成され、メールでの検討に付された。第 2 次案について意見交換がされ、さらに第 3 次案を作成、これを微調整の上、17 日昼に史学委員長に提出された。）

（3） 第 26 回科学史技術史国際会議（プラハ：zoom 方式：2021. 7）への対応
（役員立候補）

IUHPST/DHST の役員立候補が、第 2 stage に入って他国から日本推薦候補への働きかけもあるが、日本からの当初 assistant Secretary General への立候補は取り下げないこととした。